



いわき市水道事業 事業評価

(令和5年度)





本日の内容

I	事業評価の概要	3
II	実施事業評価	9
III	業務指標評価	33
IV	まとめ	45

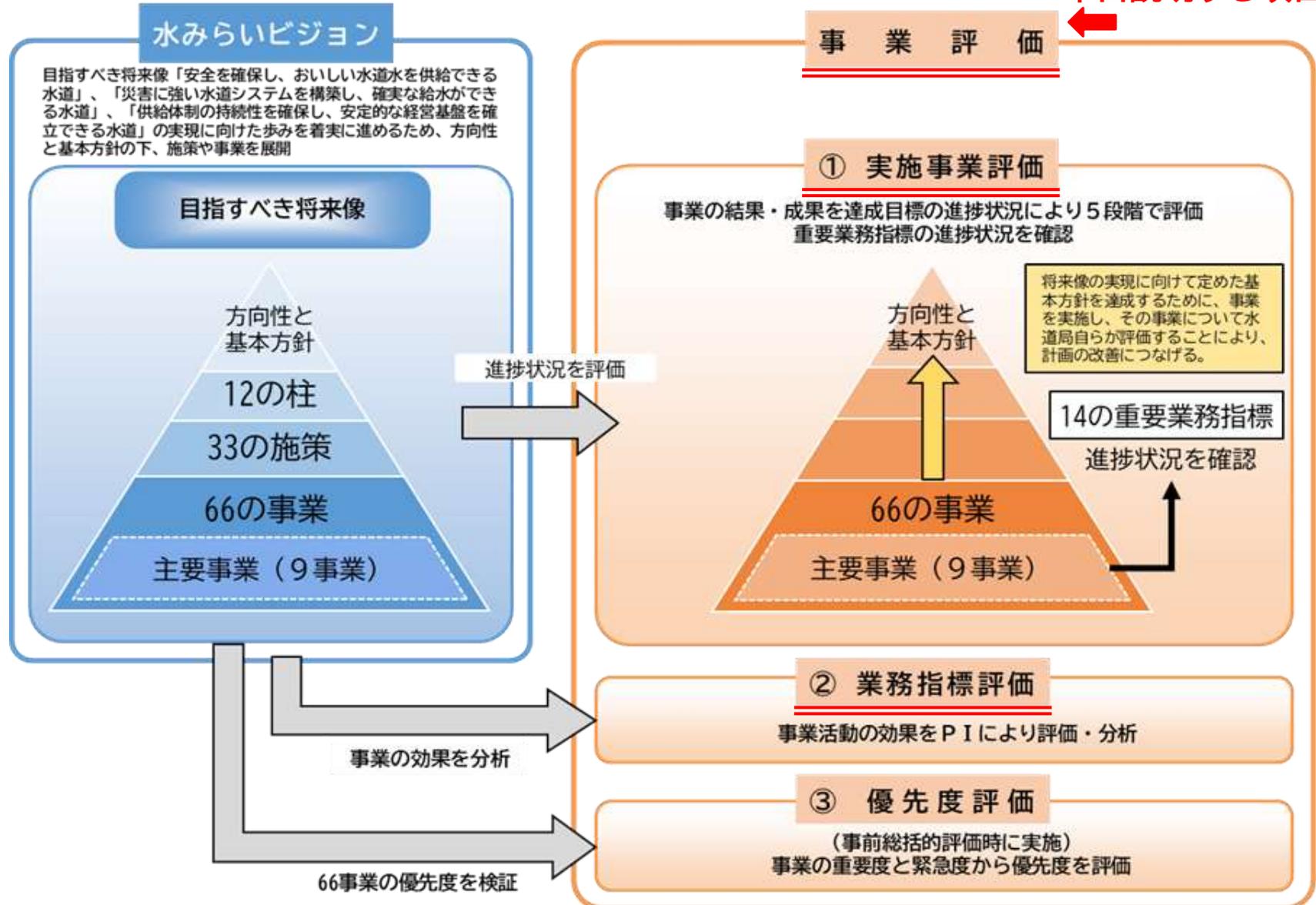


I 事業評価の概要

1	水みらいビジョンと事業評価の関係	4
2	事業評価の概要	5
3	事業評価の目的	6
4	事業評価の観点	7
5	事業評価の体制	8

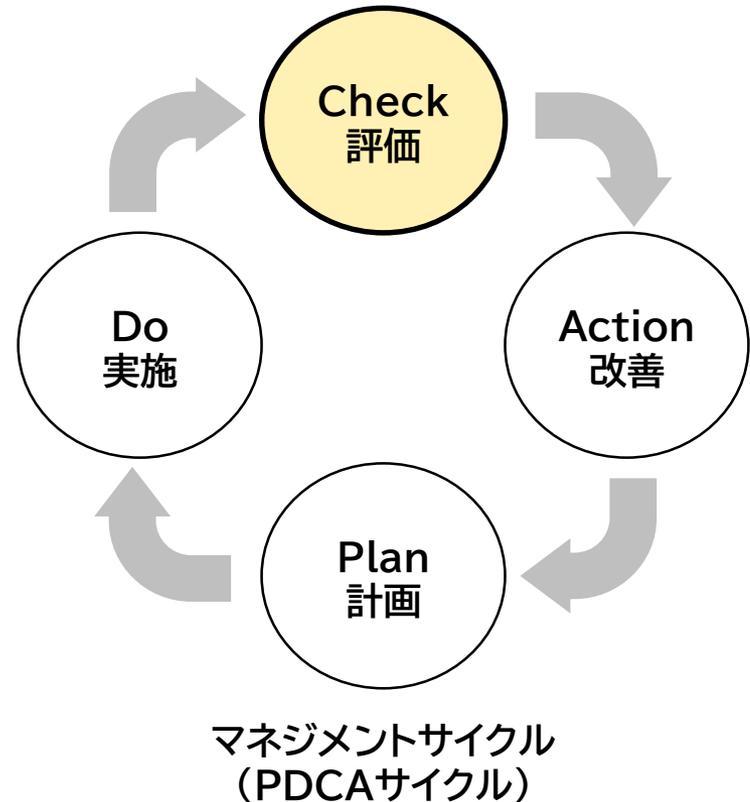
1 水みらいビジョンと事業評価の関係

本日説明する項目



2 事業評価の概要

「いわき水みらいビジョン2031」(以下「水みらいビジョン」という。)では、事業をより効果的かつ効率的に実施し、将来像の実現を推進するために、**PDCAサイクル**(「計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Action)」のマネジメントサイクル)により、事業の進捗管理と事業効果の点検評価を行い、改善策等を翌年度以降の計画や予算に反映させることで、継続的な改善・見直しを図ることとしています。



3 事業評価の目的

事業評価は、PDCAサイクルのC(Check)に位置付けられるものであり、水道局が行ったさまざまな事業について、その進捗状況や事業効果を水道局自らが評価・分析することにより、計画の改善につなげるものです。

次の3つの項目を目的として実施しています。

① 効率的な事業経営

事業の進捗状況と事業効果の評価を行い、改善策を翌年度以降の計画や予算に反映させることにより、**限られた経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)を有効に活用**します。

② 結果・成果重視の実現

目標を設定して事業を遂行し、事業の進捗状況を水道局自らが評価することで、**結果・成果を追及する意識が生まれ、それらを重視した事業運営を実現**します。

また、これにより事業を効率的かつ効果的に実施していく方策を考えることが可能となり、**事業の質の向上**につながります。

③ アカウンタビリティ(説明責任)の向上

事業の進捗状況や事業効果の評価を公表することにより、**経営の透明性を高めます**。

4 事業評価の観点

単年度の事業評価では、目指すべき将来像「安全を確保し、おいしい水道水を供給できる水道」、「災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道」、「供給体制の持続性を確保し、安定的な経営基盤を確立できる水道」の実現に向けた歩みを着実に進めるため、事業の進捗状況や事業活動の効果の評価を2つの観点で行います。

評価の観点	主な特徴
① 実施事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の進捗状況を、5段階で評価します。 ● 重要業務指標(KPI)¹の進捗状況を確認します。
② 業務指標評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業活動の効果について、PI(業務指標)²を活用し評価を行います。 ● PIを水みらいビジョンに掲げた3つの観点(「安全」、「強靱」、「持続」)に区分し、体系的な視点から評価を行います。 ● 経年比較により「改善度」を確認します。 ● 類似団体³との比較により、「乖離値」を確認します。 ● 改善度と乖離値の評価結果をもとに分析を行います。

1 KPIとは、Key Performance Indicatorsの略で、水みらいビジョンにおいて、9つ主要事業の実行性を確保するとともに、その達成状況をお客さまにわかりやすくお知らせするために設定された指標。

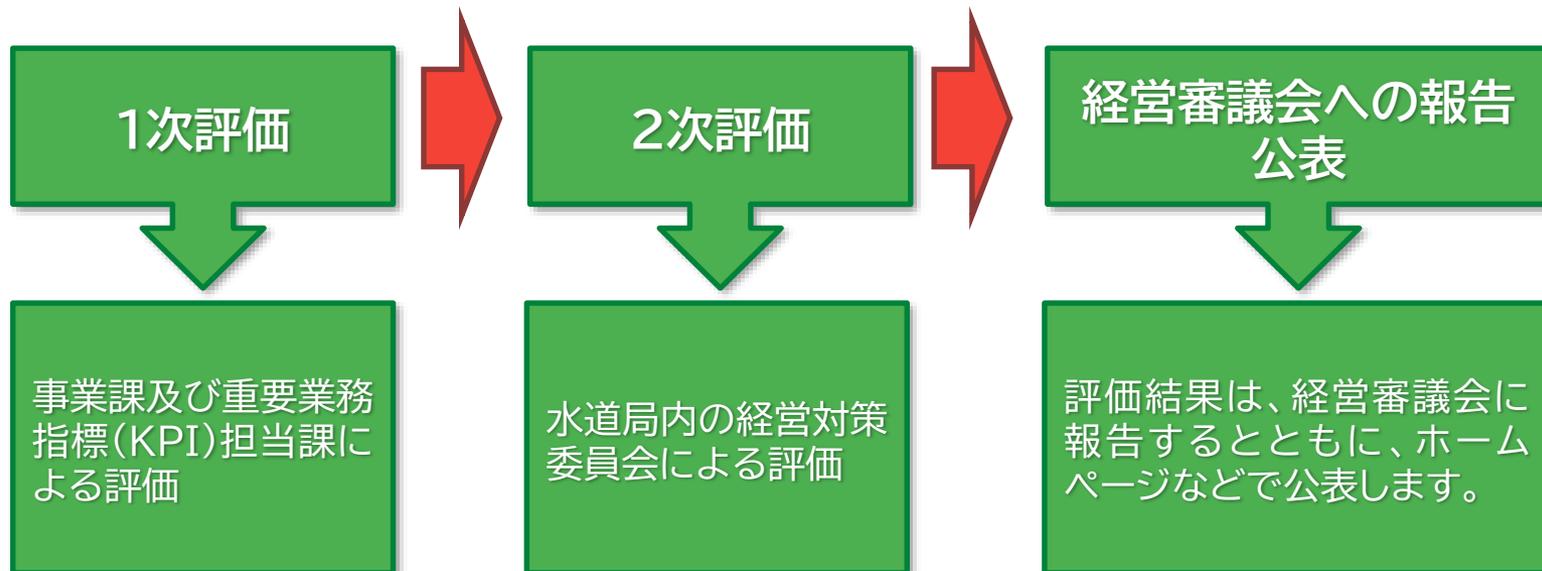
2 PIとは、Performance Indicatorsの略で、水道業務の効率を図るために活用できる規格の一種で、水道事業体が行っている多方面にわたる業務を定量化し、厳密に定義された算定式により評価するもの。

3 類似団体の定義：現在給水人口が30万人以上の末端給水事業（政令指定都市を除く。）事業体数、48事業体（いわき市を除く。）

5 事業評価の体制

事業評価は、事業課などによる1次評価と、水道局内の経営対策委員会による2次評価の2段階体制で評価を行っています。

評価結果は**経営審議会に報告**するとともに、水道局ホームページなどでお客様に**公表**します。





Ⅱ 実施事業評価

1	実施事業評価の概要	10
2	水みらいビジョンの施策体系表	11
3	実施事業評価(主要事業)	15
4	重要業務指標(KPI)の進捗状況	24
5	実施事業評価(66事業)一覧表	28
6	66事業の評価結果について	32

1 実施事業評価の概要

実施事業評価は、水みらいビジョンで展開する①66の事業の進捗状況の評価するものです。特に、水みらいビジョンの中心となる②9つの主要事業については、達成状況についてもお知らせします。また、主要事業に設定された③14の重要業務指標(KPI)の進捗状況を確認します。

実施事業評価の評価基準

実施事業評価は、事業ごとに設定した達成目標を踏まえ、A～Eの5段階で評価します。

○数値目標がないもの

- 順調に進捗している
- おおむね順調に進捗している
- やや遅れている
- 遅れている
- ほとんど進捗していない

○数値目標があるもの

- 目標値の100%以上
- 目標値の80%以上100%未満
- 目標値の50%以上 80%未満
- 目標値の30%以上 50%未満
- 目標値の30%未満

○達成目標が複数あるもしくは複数課にまたがる場合の集約

- 各評価の平均値 4.5以上 ⇒ A評価
- 3.5以上4.5未満 ⇒ B評価
- 2.5以上3.5未満 ⇒ C評価
- 1.5以上2.5未満 ⇒ D評価
- 1.5未満 ⇒ E評価

① 実施事業評価(66事業)一覧表

施策と事業	計画/実績/評価	いわき水みらいビジョン2031											
		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13		
柱2.1 水需要を踏まえた施設再編による水道システムの最適化、安定化													
施策9 水道施設再構築構想の推進													
No.13 水道施設再構築構想の推進	計画	実施											
	実績/評価	実施	実施	A									
No.14 浄水場再整備事業	計画	発注方式の検討 → 泉浄水場再整備											
	実績/評価	検討	検討										

② 9つの主要事業

2.3 実施事業評価(主要事業)

No.14 浄水場再整備事業	評価	
	評価数値	A

○評価数値基準

A	5.0	順調に進捗している
B	4.0	おおむね順調に進捗している
C	3.0	やや遅れている
D	2.0	遅れている
E	1.0	ほとんど進捗していない

【事業概要】
この事業は、水需要を踏まえた浄水場の再整備をはじめとした水道施設の再編により、水道システム全体の最適化、安定化を目指すものです。

【評価内容】
令和5年度は、令和12年度から始まる泉浄水場再整備に向け、発注方法及び再整備を進める体制について他都市の事例を参考に、先進地視察を実施し、発注範囲や業者選定方式等を調査したほか、民間のノウハウを活用して設計、建設、維持管理及び運営等を包括的に発注する方式(DB、DBO、DBM*等)について、を採用した場合のスケジュール等について検討を行ったことから、「A評価」としました。

③ 14の重要業務指標(KPI)の進捗状況

指標No.	業務指標名 算出方法	R2 (ビジョン策定時)	R5 (実績値)	R8 (目標値)	R13 (目標値)	指標の解説	対応する 事業	指標特性 改善方向
1	【局指標】 バックアップ率(%) (各浄水場停止時のバックアップ可能水量合計/1日平均配水量)×100 ※上水道のみの数値	62.7%	71.7%	69.1%	76.3%	1日平均配水量に対するバックアップ可能水量の割合を示すもので、各浄水場の機能が停止した場合の給水の安定性を表すものであり、水道施設再構築構想において目標として設定したものの。	浄水場再整備事業 基幹浄水場連絡管整備事業	累積+

主要事業の達成状況が見える化(数値化)し、わかりやすくお知らせ

浄水場の再整備スケジュール

項目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
浄水場再整備の実施										
発注方式の検討		検討						決定		



基本理念

「未来に引き継ぐいわきの水道」 ～安全でおいしい水が必要なだけ～

新水道ビジョンの観点

安全

3つの将来像

<将来像1>
安全を確保し、おいしい水道水を供給できる水道

3つの方向性と基本方針

<安全の方向性>
安全でおいしい水道水の供給

<基本方針>
水源から蛇口までの統合的な安全対策の推進により、安心して飲める水道を目指す

施策の柱

柱1.1
水安全対策の着実な実施による良好な水質の保持

柱1.2
水質検査の充実による適正な水質管理の維持

柱1.3
安心して飲める水道の普及促進

施策

- 1 水安全計画の推進
- 2 水道水源の保全と監視
- 3 良質な水道水の維持・向上
- 4 水質検査計画の推進
- 5 水質管理体制の強化と設備の充実
- 6 放射性物質のモニタリング
- 7 給水装置等の適正管理の促進
- 8 多様な手法による水供給の研究

事業

- 1 水安全計画の推進
- 2 水道水源の保全と監視強化
- 3 水道水源水質保全促進事業補助金の交付
- 4 安全でおいしい水道水の調査研究
- 5 水質検査計画の策定と推進
- 6 水質検査機器の計画的整備・更新
- 7 水道GLP認定に準じた検査体制の整備
- 8 放射性物質モニタリングの継続
- 9 貯水槽水道の適正管理の推進
- 10 直結式給水の推進
- 11 鉛製給水管の布設替の推進
- 12 多様な手法による水供給の研究



基本理念

「未来に引き継ぐいわきの水道」～安全でおいしい水が必要なだけ～

新水道ビジョンの観点

強靱

3つの将来像

<将来像2>
災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道

3つの方向性と基本方針

<強靱の方向性>
最適で災害に強い水道システムの構築

<基本方針>
災害経験や将来の水需要を踏まえた、効率的で災害に強い水道システムを目指す

施策の柱

柱2.1
水需要を踏まえた施設再編による水道システムの最適化、安定化

柱2.2
個別対策と相互融通体制の構築による水道システムの強靱化

施策

- 9 水道施設再構築構想の推進
- 10 水道施設の効率運用の検討と管理
- 11 水道施設の新設・更新
- 12 水道施設耐震化計画の推進
- 13 水道施設津波・浸水対策計画の推進
- 14 水道施設土砂災害対策計画の推進
- 15 水道施設停電対策計画の推進
- 16 管路の新設・更新等による相互融通体制の構築と管路の強靱化

事業

- 13 水道施設再構築構想の推進
- 14 浄水場再整備事業 **主要事業**
- 15 水道施設のダウンサイジングの検討
- 16 水道施設の効率的な運用
- 17 水道施設撤去事業
- 18 水道施設整備計画の推進
- 19 水道施設新設事業
- 20 水道施設更新事業 **主要事業**
- 21 水道施設耐震化計画の推進
- 22 水道施設耐震化事業 **主要事業**
- 23 水道施設津波・浸水対策計画の推進
- 24 水道施設津波・浸水対策事業 **主要事業**
- 25 水道施設土砂災害対策計画の推進
- 26 水道施設土砂災害対策事業 **主要事業**
- 27 水道施設停電対策計画の推進
- 28 水道施設停電対策事業 **主要事業**
- 29 管路整備計画の推進
- 30 基幹浄水場連絡管整備事業 **主要事業**
- 31 重要給水施設配水管整備事業 **主要事業**
- 32 老朽管更新事業 **主要事業**
- 33 管路新設事業



基本理念

「未来に引き継ぐいわきの水道」 ～安全でおいしい水が必要なだけ～

新水道ビジョンの観点

強靱

3つの将来像

<将来像2>
災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道

3つの方向性と基本方針

<強靱の方向性>
最適で災害に強い水道システムの構築

<基本方針>
災害経験や将来の水需要を踏まえた、効率的で災害に強い水道システムを目指す

施策の柱

柱2.3
適正な維持・修繕による水道施設の長寿命化

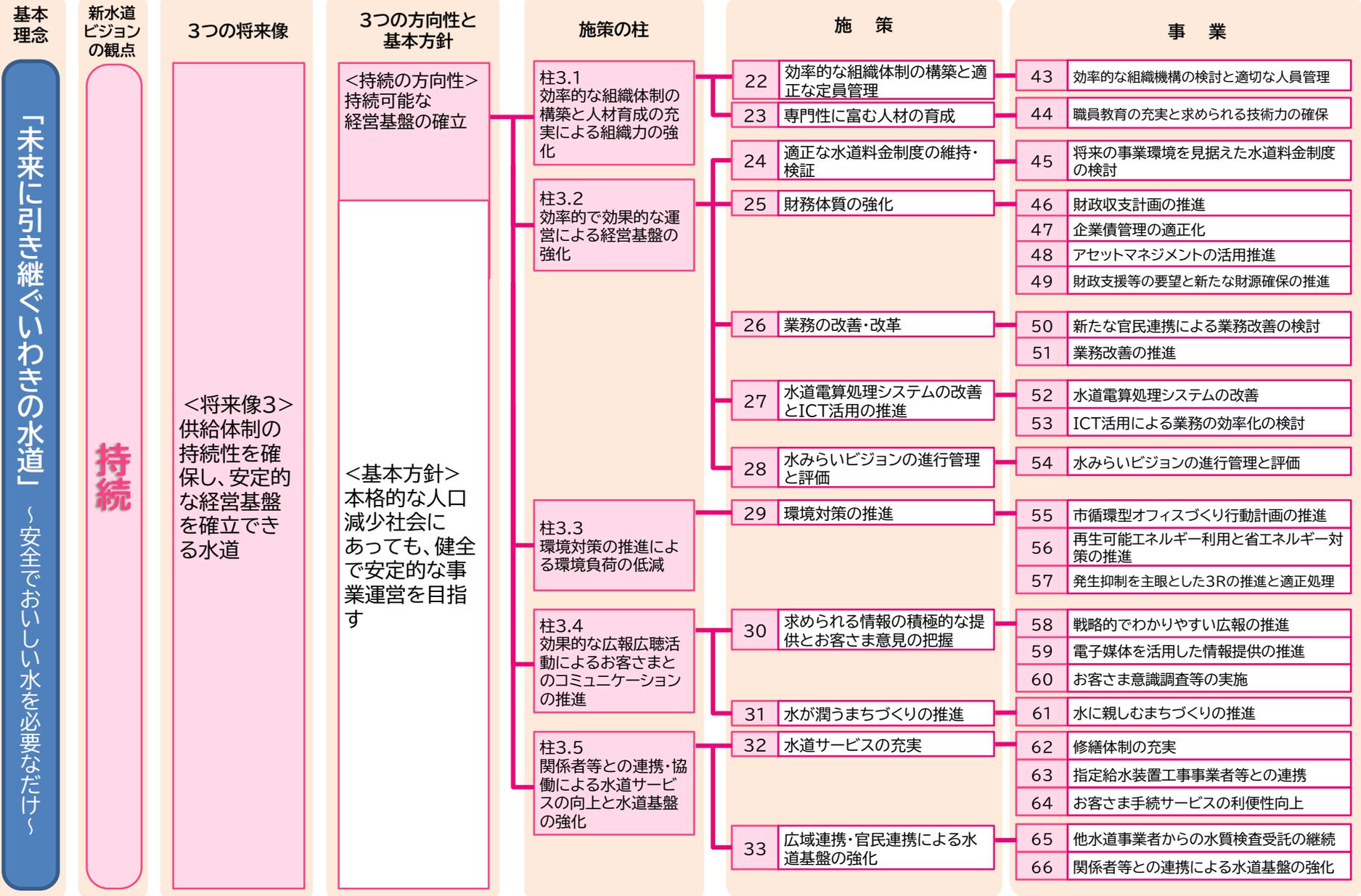
柱2.4
危機管理体制の強化による防災力の向上

施策

- 17 水道施設状況の適正把握
- 18 適正な維持・修繕の推進
- 19 水道事業継続計画の推進
- 20 危機管理対策マニュアルの充実
- 21 応急資器材・体制等の整備

事業

- 34 水道施設台帳の整備・更新
- 35 水道施設情報管理のシステム化の検討
- 36 水道施設長寿命化計画の推進
- 37 計画的な維持修繕の実施(計画修繕)
- 38 漏水防止対策事業
- 39 水道事業継続計画(BCP)の推進
- 40 危機管理対策マニュアルの充実と教育・訓練の実施
- 41 災害時通信手段の確保
- 42 応急資器材の備蓄と適正管理





○評価数値基準

A	5.0	順調に進捗している
B	4.0	おおむね順調に進捗している
C	3.0	やや遅れている
D	2.0	遅れている
E	1.0	ほとんど進捗していない

No.14 浄水場再整備事業

評価

評価数値 5.0 **A**

【事業概要】

この事業は、水需要を踏まえた浄水場の再整備をはじめとした水道施設の再編により、水道システム全体の最適化、安定化を目指すものです。

【実施・評価内容】

令和5年度は、令和12年度から始まる泉浄水場再整備に向け、発注方法や再整備を進める体制について他都市の事例を参考にするため、**先進地視察を実施し、発注範囲や業者選定方式等を調査**したほか、民間のノウハウを活用して設計、建設、維持管理及び運営等を包括的に発注する方式(DB、DBO、DBM*等)を採用した場合の**スケジュール等について検討**を行ったことから、「**A評価**」としました。

浄水場の再整備スケジュール

項目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
浄水場再整備の実施					R12~R16:基本設計~実施設計 R17~R21:工事				→	
発注方式の検討	→							決定		

発注方式によっては浄水場再整備スケジュールは変更となる可能性があります。

【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
1	【局指標】 バックアップ率(%)
4	【PI:B602】 浄水施設の耐震化率(%)
13	【局指標】 施設の更新率(%)



令和5年度 官民連携推進協議会

令和5年度実施

- ・民間活用事例勉強会 (5月、6月)
- ・官民連携推進協議会 (郡山市・7月)
- ・先進地視察 (秋田市・3月)

DB、DBO、DBM*

DB方式

➔ 設計・施工一括発注方式

DBO方式

➔ 設計・施工・運転管理業務一括発注方式

DBM方式

➔ 設計・施工・維持管理業務一括発注方式



No.20 水道施設更新事業

評価

評価平均値※ 4.0 **B**

○評価の集約基準

A	4.5以上
B	4.5未満 3.5以上
C	3.5未満 2.5以上
D	2.5未満 1.5以上
E	1.5未満

※ 評価平均値とは、事業の達成目標が複数ある場合、または事業が複数課にまたがる場合に、各評価結果を数値化し、その平均値を集約したものです。

【事業概要】

この事業は、水道施設整備計画において本市の更新基準として設定した「標準使用年数」や、施設の重要度に応じて設定した「延長使用年数」に基づき、浄水施設や配水施設などを計画的に更新するものです。

○完了:28施設

〈令和4年度から令和5年度への繰越分:9施設〉

・平浄水場計装機器更新工事 など

〈令和5年度計画分:18施設〉

・上野原浄水場中央監視設備改良工事 など

〈追加分:1施設〉

・泉浄水場高圧気中開閉器更新工事

【実施・評価内容】

令和5年度計画 30施設(下線部) ⇒ **完了 28施設**

○未完了:12施設

〈令和5年度から令和6年度への繰越分:7施設〉

- ・金ヶ沢配水池流入電動弁更新工事(資機材の納期遅延のため)
- ・洋向台ポンプ場外2箇所定水位弁更新工事(資機材の納期遅延のため)
- ・平浄水場1系高速凝集沈殿池改良工事(資機材の納期遅延のため)
- ・上野原浄水場2系真空ポンプ更新工事(資機材の納期遅延のため)
- ・法田ポンプ場引込切替盤改良工事(資機材の納期遅延のため)

※繰越した事業は令和6年度に完了する見込みです。

〈実施時期を変更した分:1施設〉

- ・水道局本庁舎照明器具更新工事(財源確保検討のため)

〈中止分:4施設〉

- ・八幡小路配水池計装設備改良工事(配水運用変更のため)
- ・川平ポンプ場ポンプ設備更新工事(他工事(高速道路)との調整のため)
- ・柳作ポンプ場受水槽更新工事(施設移転検討のため)
- ・菖蒲沢配水場計装設備更新工事(修繕工事による長寿命化が図れたため)

【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
5	【PI:B603】 ポンプ所の耐震化率(%)
6	【PI:B604】 配水池の耐震化率(%)
13	【局指標】 施設の更新率(%)



No.22 水道施設耐震化事業

評価

評価平均値 5.0

A

○評価の集約基準

A	4.5以上
B	3.5以上 4.5未満
C	2.5以上 3.5未満
D	1.5以上 2.5未満
E	1.5未満

【事業概要】

この事業は、重要度の高い施設について、耐震性能を確認するため耐震診断を実施し、耐震性が低いと判定された施設について、耐震補強や施設の更新による耐震化を進めるものです。

【実施・評価内容】

令和5年度計画 5施設 ⇒ 完了 5施設

○完了:5施設

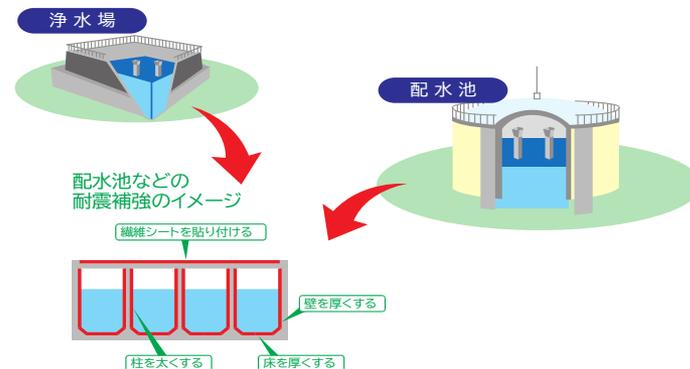
- ・下平窪取水場耐震診断委託 ⇒耐震性あり
- ・勿来配水池外3箇所耐震診断委託
 - 勿来配水池 ⇒耐震性あり
 - 大剣配水池 ⇒耐震性なし
 - 上野原1号配水池 ⇒耐震性なし
 - 上野原2号配水池 ⇒耐震性あり

水道施設耐震化事業スケジュール

項目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
浄水施設 (浄水場・取水場)	基本条件の検討	耐震診断				設計	補強工事				
配水施設 (配水池・ポンプ場)		耐震診断					設計	補強工事			

【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
3	【局指標】耐震診断実施率(%)
4	【PI:B602】浄水施設の耐震化率(%)
5	【PI:B603】ポンプ所の耐震化率(%)
6	【PI:B604】配水池の耐震化率(%)



水道施設の耐震化イメージ

No.24 水道施設津波・浸水対策事業

評価

評価平均値 3.0

C

○評価の集約基準

A	4.5以上
B	4.5 3.5以上 4.5未満
C	3.5 2.5以上 3.5未満
D	2.5 1.5以上 2.5未満
E	1.5 1.5未満

【事業概要】

この事業は、津波や大雨による浸水被害が発生した場合においても、水道施設の機能を維持し安定した給水を確保するため「水道施設津波・浸水対策計画」に基づき、防護壁の設置、開口部の防水化、止水板の設置等の津波・浸水対策を進めるものです。

【実施・評価内容】

令和5年度計画 7施設 ⇒ 完了 4施設

○完了:4施設

- ・平浄水場浸水対策工事(令和5年度～令和7年度継続事業)
- ・法田ポンプ場浸水対策工事
- ・平窪第2ポンプ場浸水対策工事
- ・薬王寺ポンプ場浸水対策工事

○未完了:3施設

〈令和5年度から令和6年度への繰越分:3施設〉

- ・好間ポンプ場浸水対策工事(資機材の納期遅延のため)
 - ・独古内ポンプ場浸水対策工事(市工事との調整のため)
 - ・釜戸第1ポンプ場浸水対策工事(入札不調のため)
- ※繰越した事業は令和6年度に完了する見込みです。

津波・浸水対策対象総数9施設

○浄水施設

- 平浄水場(R7対策完了予定)
- 法田ポンプ場(R5対策済)
- 下平窪取水場(R4対策済)

○配水施設

- 平窪第2ポンプ場(R5対策済)
- 薬王寺ポンプ場(R5対策済)
- 好間ポンプ場(R5-R6繰越)
- 独古内ポンプ場(R5-R6繰越)
- 釜戸第1ポンプ場(R5-R6繰越)

○庁舎

- 水道局本庁舎(R4対策済)



法田ポンプ場 止水壁等対策後(令和5年度)

【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
10	【局指標】 津波・浸水対策実施率(%)



平窪第2ポンプ場 止水板等対策後(令和5年度)



No.26 水道施設土砂災害対策事業

評価
評価平均値 5.0 **A**

○評価の集約基準

A	4.5以上
B	3.5以上 4.5未満
C	2.5以上 3.5未満
D	1.5以上 2.5未満
E	1.5未満

【事業概要】

この事業は、水道施設において土砂災害が発生した場合においても、浄水処理や送・配水機能への被害を抑制し確実な給水を維持するため、「水道施設土砂災害対策計画」に基づき、計画的な土砂災害対策を進めるものです。

【実施・評価内容】

令和5年度計画 1施設 ⇒ **完了 1施設**

○完了:1施設

- ・大滝江筋取水口斜面落石対策工事(令和4年度～令和6年度継続事業)

取水口が閉塞しないよう、斜面の落石防護網を設置する工事を実施しています。

水道施設土砂災害対策事業スケジュール

項目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
取水口		工事	完了							
配水施設	完了									

配水施設【予防対策】 2施設
(令和4年度で対策完了)

- ・下ヶ屋敷調整池土砂災害対策工事
- ・頭巾平ポンプ場土砂災害対策工事

【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
11	【局指標】 土砂災害対策実施率(%)

○ 取水口

恒久対策として、取水口が閉塞しないよう、斜面の落石防護網を設置する工事を実施しています。



落石により大滝江筋用水路が閉塞(平成23年)

○ 配水施設

予防対策として、被災時においても給水を可能にする仮設給水タンクや給水ポンプ接続用配管の設置工事を実施しました。



消火栓から給水を可能とした様子

○評価数値基準

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

No.28 水道施設停電対策事業

評価

評価数値 5.0

A

【事業概要】

この事業は、停電の発生リスクの高まりを踏まえ、停電が発生した場合においても、浄水処理や送・配水機能への被害を抑制し確実な給水を維持するため、「水道施設停電対策計画」に基づき、自家発電設備の整備など施設の重要度に応じた計画的な停電対策を進めるものです。

【実施・評価内容】

令和5年度計画 6施設(下線部) ⇒ 完了 8施設

○完了:8施設

- 〈令和4年度から令和5年度への繰越分:3施設〉
- ・山玉浄水場自家発電設備設置設計委託
 - ・移動電源車(2台)の購入(泉浄水場、法田ポンプ場)

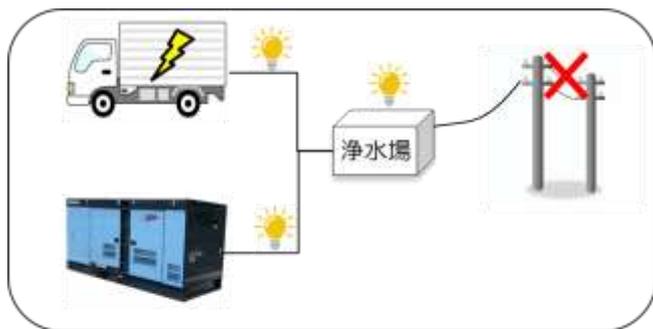
〈令和5年度計画分:5施設〉

- ・平浄水場非常用自家発電設備設計委託
- ・可搬型発電機(4台)の購入
(旅人浄水場、上遠野浄水場、入遠野導水ポンプ場、入遠野浄水場)

○未完了:1施設

- 〈令和5年度から令和6年度への繰越分:1施設〉
- ・法田ポンプ場可搬型発電設備接続端子設置工事
(資機材の納期遅延のため)

※繰越した事業は令和6年度に完了する見込みです。



水道施設の停電対策イメージ

【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
12	【局指標】 停電対策実施率(%)



田部ポンプ場の可搬型発電機(令和4年度)



移動電源車(令和5年度)



○評価数値基準

No.30 基幹浄水場連絡管整備事業

評価

評価数値 5.0

A

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

【事業概要】

この事業は、平常時の効率的な配水運用を可能にし、さらに災害発生時などの非常時にも安定した給水を確保し、災害による影響(断水)を最小化することを目的として、浄水場水系間で相互融通体制を構築する連絡管等の整備を進め、バックアップ機能の強化を図るものです。

本計画期間においては平浄水場から常磐地区や泉地区へ給水している泉浄水場水系へのバックアップ路線も兼ねた「鹿島・常磐水系幹線」及び「中部配水池」の整備を進めるものです。

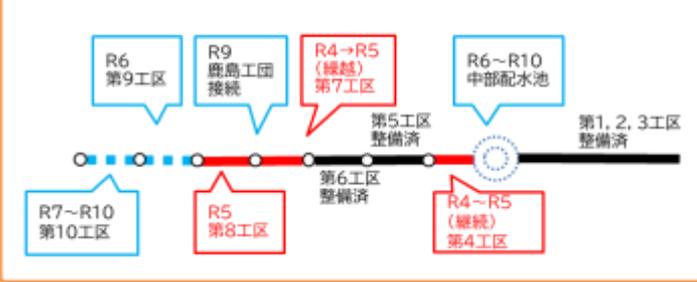
【実施・評価内容】

令和5年度計画 2工区(下線部) ⇒ **完了 3工区**

○鹿島・常磐水系幹線 令和5年度までの進捗
 計画 8/13工区(61.5%)
 実績 8/11工区(72.7%)
達成率 (118.2%)

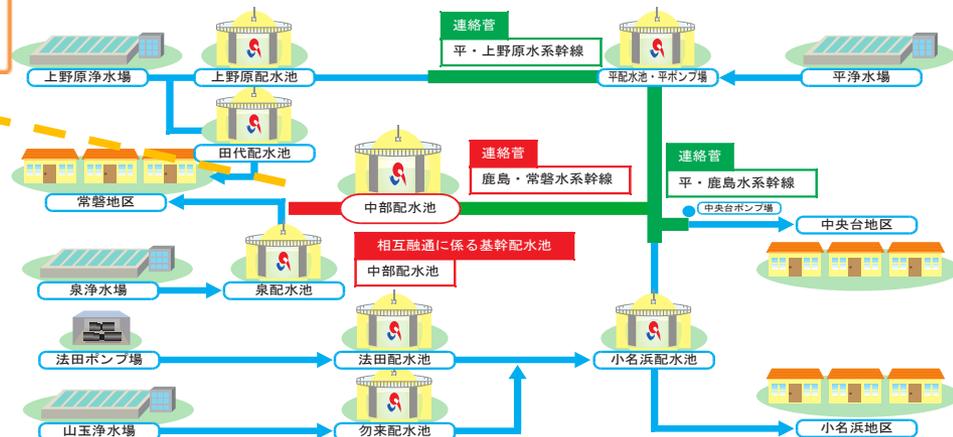
※ 工区の合併、見直しにより全13工区から全11工区としました。

鹿島・常磐水系幹線・中部配水池 事業計画図(令和4年度～令和10年度)



【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
1	【局指標】バックアップ率(%)
2	【局指標】基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率(%)
7	【PI:B605】管路の耐震管率(%)
8	【PI:B606】基幹管路の耐震管率(%)





○評価数値基準

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

No.31 重要給水施設配水管整備事業

評価

評価数値 4.0

B

【事業概要】

この事業は、災害等の非常時においても救急医療機関等の重要な給水施設(重要給水施設)への確実な給水を確保するため、「重要給水施設配水管整備計画」に基づき、耐震化された配水池から重要給水施設までの管路耐震化を進めるものです。

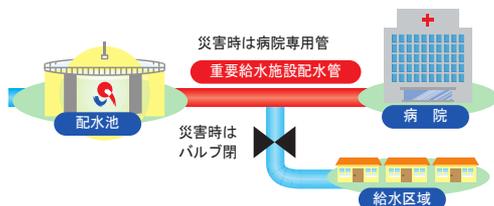
【実施・評価内容】

令和4年度まで 整備済延長	令和5年度 整備延長	令和5年度まで 整備済延長 (A)	計画総延長(B)
52,654m +	1,559m	= 54,213m	94,110m

令和5年度
重要給水施設配水管路の耐震管率

計画 57.7%
実績 57.6%(A/B)

達成率 99.8%



重要給水施設配水管イメージ

○令和5年度に重要給水施設配水管の耐震化が完了した施設

救急医療機関・人工透析病院 いわき泌尿器科 (新)松尾病院	公共施設・福祉避難所 いわきゆったり館
-------------------------------------	------------------------

○令和4年度以前に重要給水施設配水管の耐震化が完了した施設

救急医療機関・人工透析病院 松村総合病院 かしま病院 松尾病院 ニュータウン腎・内科クリニック かもめクリニック いわき市医療センター 大河内記念病院 常磐病院	公共施設・福祉避難所 県立平支援学校 福島県いわき海浜自然の家 中央台市民サービスセンター 中央台分遣所 江名分遣所 久之浜大久支所 川前支所 川前分遣所 小川支所
--	---

【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
7	【PI:B605】 管路の耐震管率(%)
8	【PI:B606】 基幹管路の耐震管率(%)
9	【PI:B607】 重要給水施設配水管路の耐震管率(%)
14	【PI:B504】 管路の更新率(%)

○完了:4件

〈令和4年度から令和5年度への繰越分〉L=246m
・(重)内郷御厩町配水管(第138-105号外)整備工事

〈令和5年度計画分〉L=1,313m
・(重)平配水管(第140-619号外)整備工事 など

○未完了:1件

〈令和5年度から令和6年度への繰越分〉L=396m
・(重)小名浜南富岡配水管(第243-33号外)整備工事
(資機材の納期遅延のため)

※繰越した事業は令和6年度に完了する見込みです。



○評価数値基準

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

No.32 老朽管更新事業

評価

評価数値 3.0

C

【事業概要】

この事業は、水道施設総合整備計画(管路整備計画)において本市の更新基準として設定した「標準使用年数」や重要度に応じて設定した「延長使用年数」に基づき、100年更新サイクルを目指し、管路の年間更新率1.00%(23km)を目標に計画的に管路を更新するものです。

【実施・評価内容】

令和5年度計画 23km(年間目標) ⇒ 完了 15.5km

○令和5年度 管路の更新率

管路総延長 2,283.5km 計画 1.00%
更新延長 15.5km 実績 0.68% 達成率68.0%

○完了:50件

〈令和4年度から令和5年度への繰越分〉 L=6.9km
・小名浜配水管(第266-112号)改良工事 外16件

〈令和4年度から令和5年度の債務負担分〉 L=1.5km
・平中山配水管(第159-3号外)改良工事 外2件

〈令和5年度計画分〉 L=7.1km
・小名浜玉川町配水管(第226-23号外)改良工事 外29件

○未完了:37件

〈令和5年度から令和6年度への繰越分〉 L=5.5km
・江名配水管(第249-11号外)改良工事(岩盤層に伴う作業効率の低下) 外14件

〈令和5年度から令和6年度の債務負担分〉 L=8.1km
・平下荒川配水管(第158-1号外)改良工事 外15件

〈中止分〉 L=1.1km
・小名浜道路関連山田町配水管(第255-57号外)移設補償工事(県工事との調整のため) 外5件

※ 繰越した事業及び債務負担工事は令和6年度に完了する見込みです。



【対応する重要業務指標(KPI)】

指標No.	重要業務指標(KPI)
7	【PI:B605】 管路の耐震管率(%)
8	【PI:B606】 基幹管路の耐震管率(%)
14	【PI:B504】 管路の更新率(%)

重要業務指標(KPI)は、水みらいビジョンの中心となる9つの主要事業の実効性を確保するとともに、その達成状況をお客さまにわかりやすくお知らせできるよう目標として設定した指標です。令和5年度時点での中間目標値(R8)や計画期間の最終目標(R13)に対する進捗状況についてお知らせします。

指標No.	業務指標名 算出方法	R2 (ビジョン 策定時)	R5 (実績値)	R8 (目標値)	R13 (目標値)	指標の解説	対応する 事業	指標特性/ 改善方向
1	【局指標】 バックアップ率(%) (各浄水場停止時のバックアップ可能水量 合計/1日平均配水量)×100 ※上水道のみの数値	62.7%	71.7%	69.1%	76.3%	1日平均配水量に対するバックアップ 可能水量の割合を示すもので、各浄 水場の機能が停止した場合の給水の 安定性を表すものであり、水道施設 再構築構想において目標として設定 したものの。	浄水場 再整備事業 基幹浄水場 連絡管整備 事業	累積 +
2	【局指標】 基幹浄水場連絡管整備事業の進 捗率(%) (鹿島・常磐水系幹線新設・中部配水池新設 完成工区数/総工区数)×100	23.1%	72.7%	76.9%	100% (R10)	相互融通体制の構築において重要と なる基幹浄水場連絡管整備事業の進 捗状況を示すもので、給水の安定性 向上に向けた取組状況を表すもの。	基幹浄水場 連絡管整備 事業	累積 +
3	【局指標】 耐震診断実施率(%) (耐震診断実施箇所数/耐震診断対象箇所 数)×100	20.6%	35.3%	94.1%	100% (R10)	水道施設耐震化計画における耐震診 断対象施設のうち耐震診断を実施し た施設の割合を示すものであり、水 道施設耐震化計画において目標とし て設定したものの。	水道施設耐 震化事業	累積 +

※R13目標値の()書きは、目標年度前に目標値が達成される見込みの年度



指標 No.	業務指標名 算出方法	R2 (ビジョン 策定時)	R5 (実績値)	R8 (目標値)	R13 (目標値)	指標の解説	対応する 事業	指標特性/ 改善方向
4	【PI:B602】 浄水施設の耐震化率(%) (耐震対策の施された浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	23.4%	23.6%	23.6%	33.2%	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したものの。	浄水場 再整備事業 水道施設 耐震化事業	累積 +
5	【PI:B603】 ポンプ所の耐震化率(%) (耐震対策の施されたポンプ所(ランクA)能力/耐震化対象ポンプ所能力)×100	51.6%	51.6%	51.6%	53.8%	耐震化対象ポンプ所(ランクA)能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したものの。	水道施設 更新事業 水道施設 耐震化事業	累積 +
6	【PI:B604】 配水池の耐震化率(%) (耐震対策の施されたランクA配水池有効容量/全配水池等有効容量)×100	30.6%	57.7%	47.0%	56.0%	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したものの。	水道施設 更新事業 水道施設 耐震化事業	累積 +
7	【PI:B605】 管路の耐震管率(%) (耐震管延長/管路延長)×100 ※水道配水用ポリエチレン管を含む。	12.6%	15.9%	19.3%	24.4%	導・送・配水管(配水支管を含む)すべての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したものの。	基幹浄水場 連絡管整備 事業 重要給水施設 配水管整備 事業 老朽管更新 事業	累積 +



指標 No.	業務指標名 算出方法	R2 (ビジョン 策定時)	R5 (実績値)	R8 (目標値)	R13 (目標値)	指標の解説	対応する 事業	指標特性/ 改善方向
8	【PI:B606】 基幹管路の耐震管率(%) (基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長)×100	43.6%	45.5%	47.5%	51.1%	基幹管路(導・送・配水本管)の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したものの。	基幹浄水場 連絡管整備 事業 重要給水施 設配水管整 備事業 老朽管更新 事業	累積 +
9	【PI:B607】 重要給水施設配水管路の耐震管率(%) (重要給水施設配水管路のうち耐震管延長/重要給水施設配水管路延長)×100	37.9%	57.6%	63.8%	70.1%	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表すものであり、重要給水施設配水管整備事業の成果を表すものの。	重要給水施設配水管整備事業	累積 +
10	【局指標】 津波・浸水対策実施率(%) (恒久対策及び予防対策実施済み施設数/恒久対策及び予防対策実施対象施設数)×100	0.0%	55.6%	100% (R7)	—	水道施設津波・浸水対策計画における恒久対策及び予防対策実施対象施設のうち津波・浸水対策を完了した施設の割合を示すもので、水道施設津波・浸水対策計画において目標として設定したものの。	水道施設津波・浸水対策事業	累積 +
11	【局指標】 土砂災害対策実施率(%) (恒久対策及び予防対策実施済み施設数/恒久対策及び予防対策実施対象施設数)×100	0.0%	66.7%	100% (R6)	—	水道施設土砂災害対策計画における恒久対策及び予防対策実施対象施設のうち土砂災害対策を完了した施設の割合を示すもので、水道施設土砂災害対策計画において目標として設定したものの。	水道施設土砂災害対策事業	累積 +

※R8目標値の()書きは、目標年度前に目標値が達成される見込みの年度



指標 No.	業務指標名 算出方法	R2 (ビジョン 策定時)	R5 (実績値)	R8 (目標値)	R13 (目標値)	指標の解説	対応する 事業	指標特性/ 改善方向
12	【局指標】 停電対策実施率(%) (対策実施済み施設数/対策レベルAまたはBに該当する施設数)×100	39.1%	65.2%	73.9%	100%	水道施設停電対策計画における対策レベルA又はBに該当する施設のうち停電対策を完了した施設の割合を示すもので、水道施設停電対策計画において目標として設定したものです。	水道施設 停電対策 事業	累積 +
13	【局指標】 施設の更新率(%) (水道施設整備計画の計画期間内(令和53年度まで)に更新された施設数/総施設数)×100	0.0%	0.0%	2.6%	5.5%	総施設数に対する水道施設整備計画の計画期間内に更新された施設の割合を示すもので、水道施設整備計画において目標として設定したものです。	浄水場 再整備事業 水道施設 更新事業	累積 +
14	【PI:B504】 管路の更新率(%) (更新された管路延長/管路延長)×100	1.36%	0.68%	1.00%	1.00%	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表すものであり、管路整備計画において目標として設定したものです。	重要給水施設配水管整備事業 老朽管更新事業	単年 +



【評価基準】実施事業評価は、事業ごとに設定した達成目標を踏まえ、A～Eの5段階で評価します。

○数値目標がないもの

○数値目標があるもの

○達成目標が複数あるもしくは複数課にまたがる場合の集約

順調に進捗している	目標値の100%以上	各評価の平均値 4.5以上	⇒ A評価
おおむね順調に進捗している	目標値の80%以上100%未満	3.5以上4.5未満	⇒ B評価
やや遅れている	目標値の50%以上80%未満	2.5以上3.5未満	⇒ C評価
遅れている	目標値の30%以上50%未満	1.5以上2.5未満	⇒ D評価
ほとんど進捗していない	目標値の30%未満	1.5未満	⇒ E評価

安全の方向性 安全でおいしい水道水の供給

柱	施策	事業名	評価
1.1	1	No.1 水安全計画の推進	A
	2	No.2 水道水源の保全と監視強化	A
		No.3 水道水源水質保全促進事業補助金の交付	A
	3	No.4 安全でおいしい水の調査研究	A
1.2	4	No.5 水質検査計画の策定と推進	A
	5	No.6 水質検査機器の計画的整備・更新	A
		No.7 水道GLP認定に準じた検査体制の整備	C
6	No.8 放射性物質モニタリングの継続	A	
1.3	7	No.9 貯水槽水道の適正管理の推進	A
		No.10 直結式給水の推進	A
		No.11 鉛製給水管の布設替の推進	B
	8	No.12 多様な手法による水供給の研究	A

水道GLP認定の取得については、業務量や財政収支への影響を鑑み中止とし、代替として水道水質検査優良試験所規範を参考に、検査マニュアル作成や精度管理研修に参加する等、職員のスキルアップに努めることとした。

鉛製給水管解消計画の改訂に至らなかったことによるもの。老朽管更新事業に併せて効率的に実施していく。



強靱の方向性 最適で災害に強い水道システムの構築

柱	施策	事業名	評価
2.1	9	No.13 水道施設再構築構想の推進	A
		No.14 浄水場再整備事業 主要事業 ※ 明細は15ページ参照	A
	10	No.15 水道施設のダウンサイジングの検討	A
		No.16 水道施設の効率的な運用	A
		No.17 水道施設撤去事業	A
	11	No.18 水道施設整備計画の推進	A
		No.19 水道施設新設事業	-
No.20 水道施設更新事業 主要事業 ※ 明細は16ページ参照		B	
2.2	12	No.21 水道施設耐震化計画の推進	A
		No.22 水道施設耐震化事業 主要事業 ※ 明細は17ページ参照	A
	13	No.23 水道施設津波・浸水対策計画の推進	A
		No.24 水道施設津波・浸水対策事業 主要事業 ※ 明細は18ページ参照	C
	14	No.25 水道施設土砂災害対策計画の推進	A
		No.26 水道施設土砂災害対策事業 主要事業 ※ 明細は19ページ参照	A
	15	No.27 水道施設停電対策計画の推進	A
		No.28 水道施設停電対策事業 主要事業 ※ 明細は20ページ参照	A

資機材の納期遅延の影響により、7施設の工事を翌年度へ繰越、1施設の工事を次年度以降へ実施時期を変更し、また配水運用変更等の理由により4施設の工事を中止としたことによるもの。

資機材の納期遅延の影響や他工事との調整のため、3施設の工事を翌年度へ繰越したことによるもの。



強靱の方向性 最適で災害に強い水道システムの構築

柱	施策	事業名	評価
2.2	16	No.29 管路整備計画の推進	A
		No.30 基幹浄水場連絡管整備事業 主要事業 ※ 明細は21ページ参照	A
		No.31 重要給水施設配水管整備事業 主要事業 ※ 明細は22ページ参照	B
		No.32 老朽管更新事業 主要事業 ※ 明細は23ページ参照	C
		No.33 管路新設事業	A
2.3	17	No.34 水道施設台帳の整備・更新	A
		No.35 水道施設情報管理のシステム化の検討	A
	18	No.36 水道施設長寿命化計画の推進	A
		No.37 計画的な維持修繕の実施(計画修繕)	A
2.4	21	No.38 漏水防止対策事業	A
		No.39 水道事業継続計画(BCP)の推進	A
		No.40 危機管理対策マニュアルの充実と教育・訓練の実施	A
		No.41 災害時通信手段の確保	A
		No.42 応急資器材の備蓄と適正管理	A

資機材の納期遅延の影響により、1件の工事を翌年度へ繰越したことによるもの。

岩盤層に伴う作業効率の低下等により15件の工事を翌年度へ繰越したこと及び、他関連事業の進捗の遅れ等の理由により6件の工事を中止したことによるもの。



持続の方向性 持続可能な経営基盤の確立

柱	施策	事業名	評価
3.1	22	No.43 効率的な組織機構の検討と適切な人員管理	A
	23	No.44 職員教育の充実と求められる技術力の確保	A
3.2	24	No.45 将来の事業環境を見据えた水道料金制度の検討	A
		No.46 財政収支計画の推進	A
		No.47 企業債管理の適正化	A
		No.48 アセットマネジメントの活用推進	A
	25	No.49 財政支援等の要望と新たな財源確保の推進	A
		No.50 新たな官民連携による業務改善の検討	A
	26	No.51 業務改善の推進	A
		No.52 水道電算処理システムの改善	A
27	No.53 ICT活用による業務の効率化の検討	A	
	No.54 水みらいビジョンの進行管理と評価	A	
3.3	29	No.55 市循環型オフィスづくり行動計画の推進	A
		No.56 再生可能エネルギー利用と省エネルギー対策の推進	A
		No.57 発生抑制を主眼とした3Rの推進と適正処理	A
3.4	30	No.58 戦略的でわかりやすい広報の推進	A
		No.59 電子媒体を活用した情報提供の推進	A
		No.60 お客さま意識調査等の実施	A
3.5	31	No.61 水に親しむまちづくりの推進	A
		No.62 修繕体制の充実	A
	32	No.63 指定給水装置工事事業者等との連携	A
		No.64 お客さま手続サービスの利便性向上	A
	33	No.65 他水道事業者からの水質検査受託の継続	A
		No.66 関係者等との連携による水道基盤の強化	A

66事業の評価結果について

「安全」の方向性は、全12事業中「A評価」が10事業、「B評価」、「C評価」がそれぞれ1事業
 「強靱」の方向性は、全30事業中「A評価」が25事業、「B評価」、「C評価」がそれぞれ2事業
 「持続」の方向性は、全24事業すべて「A評価」
 となりました。

評価結果一覧

	A	B	C	D	E	-	計
安全	10	1	1	0	0	0	12
強靱	25	2	2	0	0	1	30
持続	24	0	0	0	0	0	24
計	59	3	3	0	0	1	66

※ - : 実施事業無し

B評価

No.11	鉛製給水管の布設替の推進	
No.20	水道施設更新事業	主要事業
No.31	重要給水施設配水管整備事業	主要事業

C評価

No. 7	水道GLP認定に準じた検査体制の整備	
No.24	水道施設津波・浸水対策事業	主要事業
No.32	老朽管更新事業	主要事業

実施事業なし

No.19	水道施設新設事業
-------	----------



Ⅲ 業務指標評価

1 業務指標評価の評価方法	34
2 業務指標評価の対象となるPI	36
3 業務指標評価の評価結果	37

1 業務指標評価の評価方法

業務指標評価は、水みらいビジョンに基づく事業活動の効果についてPIを活用して客観的な評価を行うものであり、「**水道事業ガイドライン(PI)を活用した現状分析診断システム**」(公益財団法人水道技術研究センター)の手法を参考に、経年的な変化や類似団体との乖離を「**改善度**」と「**乖離値**」から評価・分析するものです。

項目	評価方法
改善度	<ul style="list-style-type: none"> ● PI値が、前年度のPI値からどの程度変化したのかによって評価します。 ● 改善されている場合は正(+)として、悪化している場合は負(-)として表示します。
乖離値	<ul style="list-style-type: none"> ● PI値が、類似団体の平均値とどの程度離れているかによって評価します。 ● 平均値と同じ場合は50となり、平均値よりも高い場合は50を超え、低い場合は50を下回ります。

1 業務指標評価の評価方法

改善度と乖離値の分析

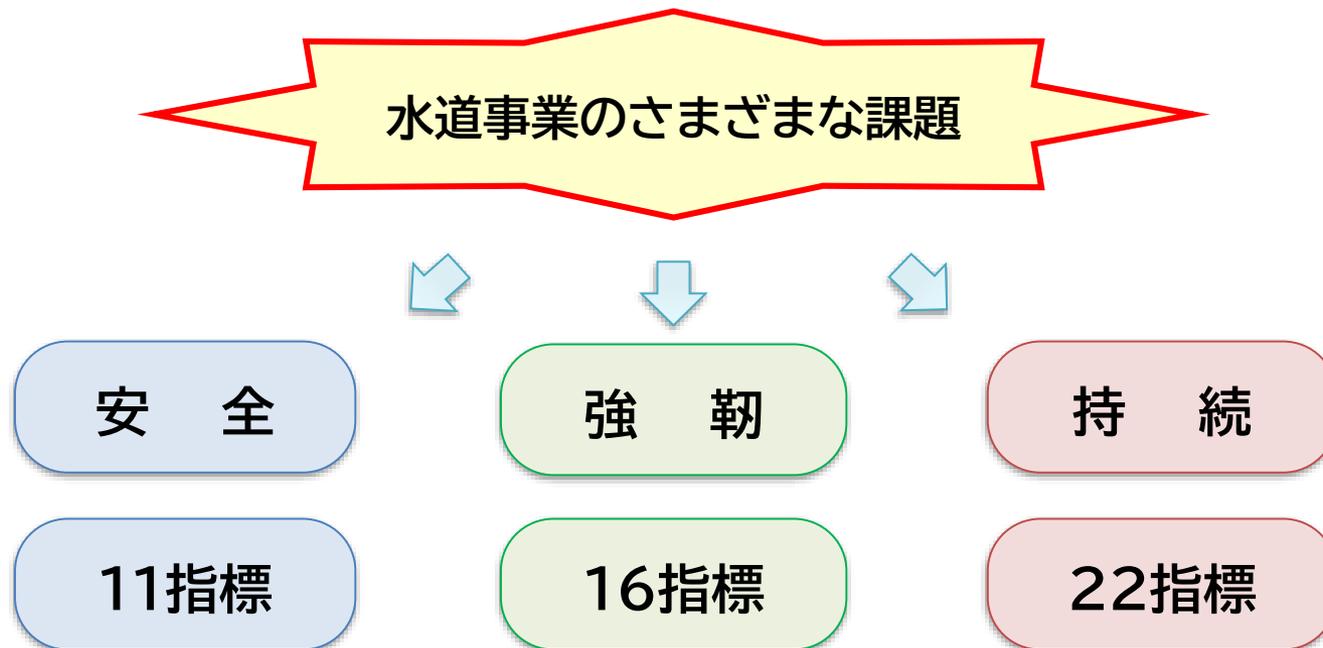
PIごとに改善度と乖離値の分析表で分類し、分析を行います。

乖離値		
カテゴリⅡ 乖離値 (+) 改善度 (-)	カテゴリⅠ 乖離値 (+) 改善度 (+)	改善度
カテゴリⅣ 乖離値 (-) 改善度 (-)	カテゴリⅢ 乖離値 (-) 改善度 (+)	
改善度と乖離値の分析表		

カテゴリ	指標の特徴	カテゴリの特徴
カテゴリⅠ	乖離値が 高く 、かつ改善度も 高い 指標	積極的に事業が行われ、類似団体より結果も出ている。
カテゴリⅡ	乖離値が 高い が、改善度は 悪化 している指標	類似団体より結果は出ているが、事業が不足している。
カテゴリⅢ	乖離値は 低い が、改善度は 高い 指標	積極的に事業が行われているが、類似団体より結果が出ていない。
カテゴリⅣ	乖離値が 低く 、かつ改善度も 悪化 している指標	事業が不足しており、類似団体より結果も出ていない。

2 業務指標評価の対象となるPI

評価の対象となるPIは、水みらいビジョンに掲げた「安全」「強靱」「持続」の3つの方向性ごとの課題をはかりとることのできる49指標としています。





PI診断表(類似団体 48事業体)

安全

区分	課題分類	課題をはかりとるPI		単位	PI値		改善度	乖離値		比較事業体PI値(R4) (いわき市含む)		カテゴリ
					R4	R5	R4→R5	R4	R5	平均値	標準偏差	
安全	原水・浄水	A301	水源の水質事故件数	件	1	0	↑100.0%	43.0	54.1	0.37	0.90	I
		A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率	%	20.0	30.0	↓-50.0%	50.6	44.4	21.0	16.2	IV
		A105	重金属濃度水質基準比率	%	2.8	2.9	→-3.6%	51.5	51.4	4.1	8.4	II
		A107	有機化学物質濃度水質基準比率	%	0.0	0.0	→0.0%	50.0	50.0	0.0	0.2	I
	配水	A108	消毒副生成物濃度水質基準比率	%	33.3	40.0	↓-20.1%	41.7	37.0	21.5	14.2	IV
		A101	平均残留塩素濃度	mg/L	0.36	0.32	↑11.1%	56.7	60.0	0.44	0.12	I
		B504	管路の更新率	%	1.06	0.68	↓-35.8%	57.9	46.8	0.79	0.34	IV
		B502	法定耐用年数超過設備率	%	62.5	62.5	→0.0%	39.6	39.6	45.8	16.1	III
		B503	法定耐用年数超過管路率	%	27.9	29.9	↓-7.2%	49.5	47.3	27.4	9.3	IV
	給水	A204	直結給水率	%	98.9	98.9	→0.0%	56.5	56.5	83.9	23.2	I
A401		鉛製給水管率	%	1.0	0.8	↑20.0%	56.1	56.3	6.7	9.3	I	



PI診断表(類似団体 48事業体)

強 靱

区分	課題分類	課題をはかりとるPI		単位	PI値		改善度 R4→R5	乖離値		比較事業体PI値(R4) (いわき市含む)		カテゴリ
					R4	R5		R4	R5	平均値	標準偏差	
〈強靱〉	老朽化対策	B502	法定耐用年数超過設備率	%	62.5	62.5	→ 0.0%	39.6	39.6	45.8	16.1	Ⅲ
		B503	法定耐用年数超過管路率	%	27.9	29.9	↓ -7.2%	49.5	47.3	27.4	9.3	Ⅳ
		B504	管路の更新率	%	1.06	0.68	↓ -35.8%	57.9	46.8	0.79	0.34	Ⅳ
		B208	給水管の事故割合	件/1000件	5.8	6.9	↓ -19.0%	42.0	37.6	3.8	2.5	Ⅳ
	災害対策	B605	管路の耐震管率	%	15.1	15.9	↑ 5.3%	42.6	43.4	22.4	9.9	Ⅲ
		B606	基幹管路の耐震管率	%	44.8	45.5	→ 1.6%	52.1	52.4	40.9	18.8	Ⅰ
		B607	重要給水施設配水管路の耐震管率	%	56.0	57.6	→ 2.9%	56.0	56.8	43.8	20.3	Ⅰ
		B602	浄水施設の耐震化率	%	23.6	23.6	→ 0.0%	40.0	40.0	43.8	20.3	Ⅲ
		B603	ポンプ所の耐震化率	%	51.6	51.6	→ 0.0%	53.3	53.3	41.1	32.2	Ⅰ
		B604	配水池の耐震化率	%	45.2	57.7	↑ 27.7%	39.8	44.8	70.5	24.7	Ⅲ
		B113	配水池貯留能力	日	1.20	1.20	→ 0.0%	60.4	60.4	0.91	0.28	Ⅰ
		B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	209	209	→ 0.0%	59.0	59.0	154	61	Ⅰ
	施設規模の 適正化	B116	給水普及率	%	99.8	99.8	→ 0.0%	52.2	52.2	96.5	15.1	Ⅰ
		B114	給水人口一人当たり配水量	L/日・人	342	342	→ 0.0%	56.9	56.9	318	35	Ⅰ
	財源・職員の 適正化	C103	総収支比率	%	110.0	107.5	→ -2.3%	50.6	49.2	109.0	17.8	Ⅳ
C108		給水収益に対する職員給与費の割合	%	13.1	12.5	→ 4.6%	45.4	46.9	11.3	3.9	Ⅲ	



PI診断表(類似団体 48事業体)

持 続

区 分	課題分類	課題をはかりとるPI		単位	PI値		改善度		乖離値		比較事業体PI値(R4) (いわき市含む)		カテゴリ
					R4	R5	R4→R5	R4	R5	平均値	標準偏差		
〈 持 続 〉	ヒト	C202	外部研修時間	時間/人	7.4	7.8	↑ 5.4%	51.1	52.0	6.9	4.6	I	
		C203	内部研修時間	時間/人	8.1	7.2	↓ -11.1%	59.7	57.0	4.9	3.3	II	
		C108	給水収益に対する職員給与費の割合	%	13.1	12.5	→ 4.6%	45.4	46.9	11.3	3.9	III	
		C205	水道業務平均経験年数	年/人	11.7	12.1	→ 3.4%	50.8	51.6	11.3	5.0	I	
	モノ	B504	管路の更新率	%	1.06	0.68	↓ -35.8%	57.9	46.8	0.79	0.34	IV	
		B110	漏水率	%	7.3	7.8	↓ -6.8%	45.4	44.4	5.1	4.8	IV	
		B104	施設利用率	%	52.2	51.6	→ -1.1%	42.1	41.7	64.1	15.1	IV	
		B301	配水量1m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	0.47	0.48	→ -2.1%	41.5	41.0	0.30	0.20	IV	
	力ネ	C102	経常収支比率	%	109.6	108.1	→ -1.4%	50.2	49.3	109.3	17.9	IV	
		C104	累積欠損金比率	%	0.0	0.0	→ 0.0%	51.4	51.4	0.3	2.1	I	
		C113	料金回収率	%	104.0	102.9	→ -1.1%	51.4	50.8	101.5	17.4	II	
		C114	供給単価	円/m ³	223.7	224.6	→ 0.4%	70.2	70.5	164.5	29.3	I	

3 業務指標評価の評価結果

本編 P29, 30



PI診断表(類似団体 48事業体)

持 続

区分	課題分類	課題をはかりとるPI		単位	PI値		改善度	乖離値		比較事業体PI値(R4) (いわき市含む)		カテゴリ
					R4	R5		R4	R5	平均値	標準偏差	
〈 持 続 〉	カネ	C118	流動比率	%	215.1	225.8	➔ 4.9%	45.6	46.1	310.1	214.7	Ⅲ
		B112	有収率	%	89.8	89.4	➔ -0.4%	50.2	49.9	89.5	14.7	Ⅳ
		C115	給水原価	円/m ³	215.1	218.2	➔ -1.4%	29.4	28.3	158.5	27.5	Ⅳ
		C106	繰入金比率(資本的収入分)	%	29.8	31.0	➔ -4.0%	38.0	37.3	10.4	16.2	Ⅳ
		C119	自己資本構成比率	%	72.7	73.3	➔ 0.8%	51.0	51.4	70.9	17.5	Ⅰ
		C112	給水収益に対する企業債残高の割合	%	307.5	308.6	➔ -0.4%	46.7	46.7	251.6	171.3	Ⅳ
		C121	企業債償還元金対減価償却費比率	%	72.6	72.2	➔ 0.6%	46.8	46.9	62.7	31.1	Ⅲ
	情報	C401	広報誌による情報の提供度	部/件	3.1	3.0	➔ -3.2%	50.0	49.7	3.1	3.0	Ⅳ
		C403	水道施設見学者割合	人/1000人	0.1	6.4	↑6,300%	44.0	69.2	1.6	2.5	Ⅰ
		C502	アンケート情報収集割合	人/1000人	4.63	3.56	↓-23.1%	62.6	57.5	2.0	2.1	Ⅱ

業務指標評価の評価結果について

「安全」の方向性は、「カテゴリⅠ」が5指標、「カテゴリⅣ」が4指標となりました。

「強靱」の方向性は、「カテゴリⅠ」が7指標、「カテゴリⅣ」が4指標となりました。

「持続」の方向性は、「カテゴリⅠ」が6指標、「カテゴリⅣ」が10指標となりました。

評価結果一覧

	カテゴリⅠ	カテゴリⅡ	カテゴリⅢ	カテゴリⅣ	計
安全	5	1	1	4	11
強靱	7	0	5	4	16
持続	6	3	3	10	22
計	18	4	9	18	49



【分析】

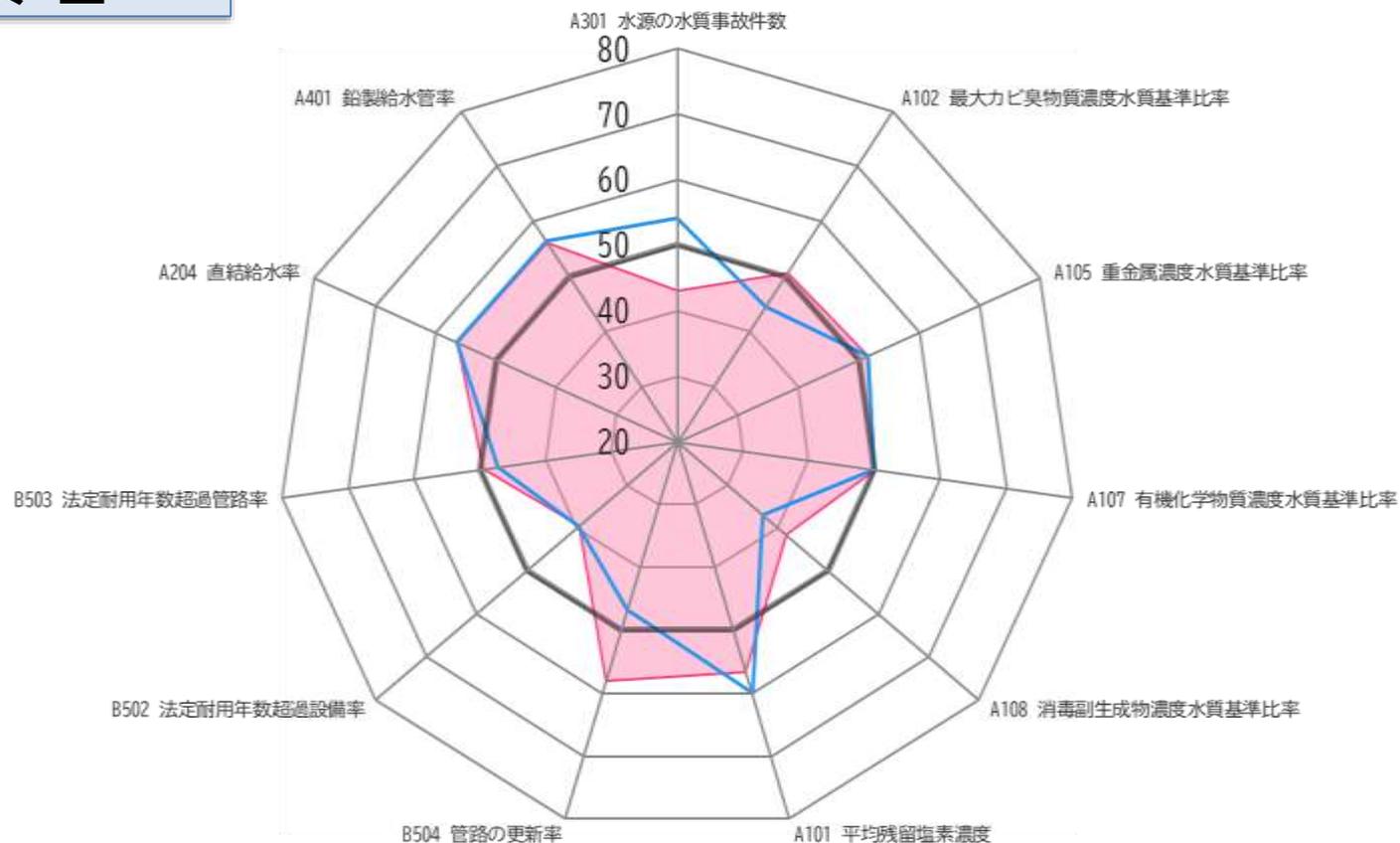
「安全」、「強靱」において、「管路更新率」は、債務負担行為による工事を増加し、更新延長が減少したことにより改善度が低下し、類似団体に比べ低い傾向にあります。「管路の耐震管率」は前年度に比べ改善傾向にありますが、類似団体に比べ低い状況にあります。ほか災害対策に関する指標は概ね改善傾向にあり、類似団体平均を上回っている状況にあります。

「持続」において、動力費の増等により費用が増加し、給水人口の減に伴い給水収益が減少したことにより、水道1m³あたりの製造単価を示す「給水原価」が上昇し、経営の健全性を示す「経常収支比率」も低下し、経営状況がより厳しいものとなっていることを示しており、類似団体と比べ低い状況にあります。



参考資料 いわき市の乖離値レーダーチャート(類似団体 48事業体)

安全



乖離値 R 5



乖離値 R 4

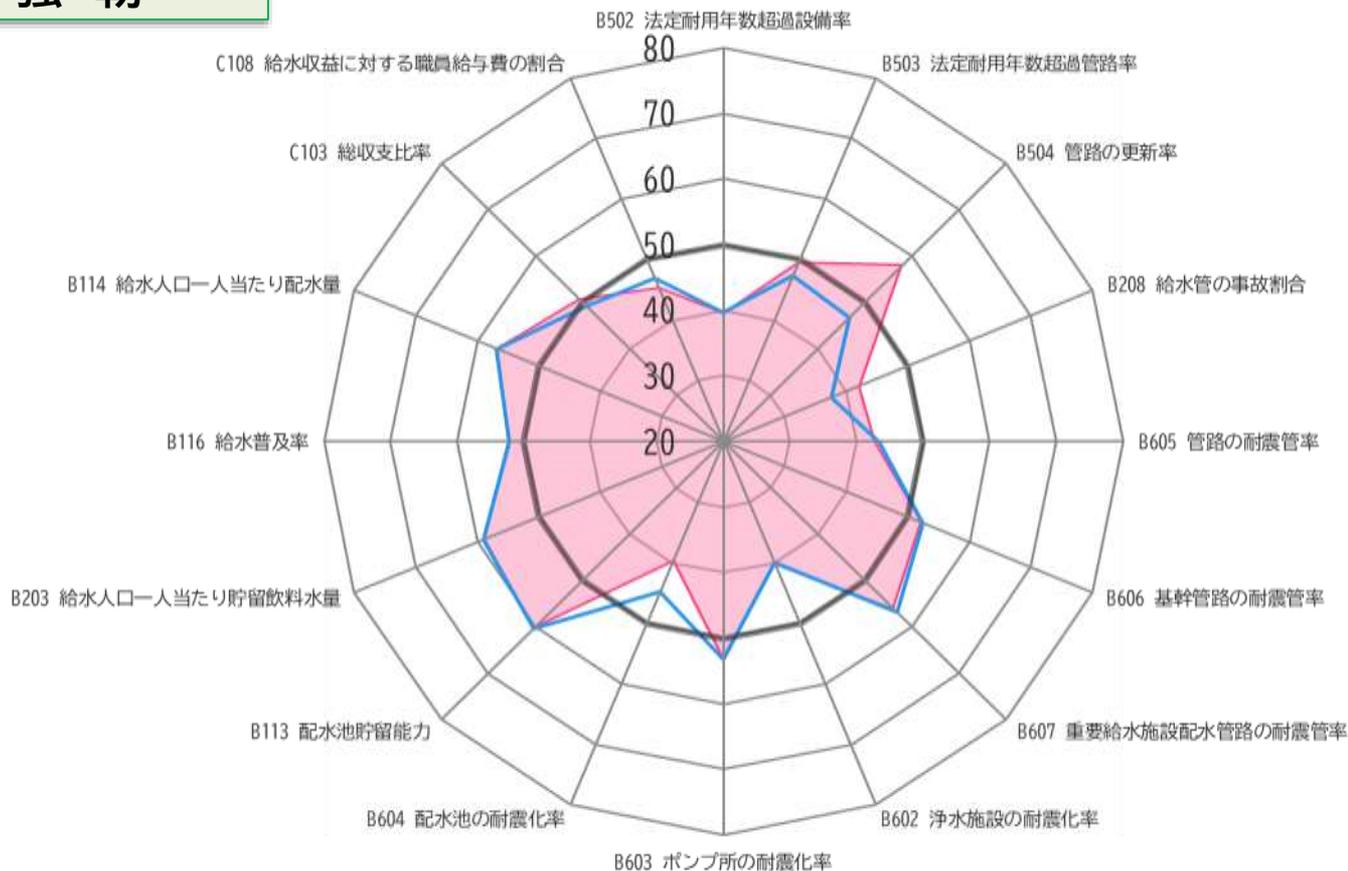


比較事業体平均



参考資料 いわき市の乖離値レーダーチャート(類似団体 48事業体)

強 韌



乖離値 R 5



乖離値 R 4

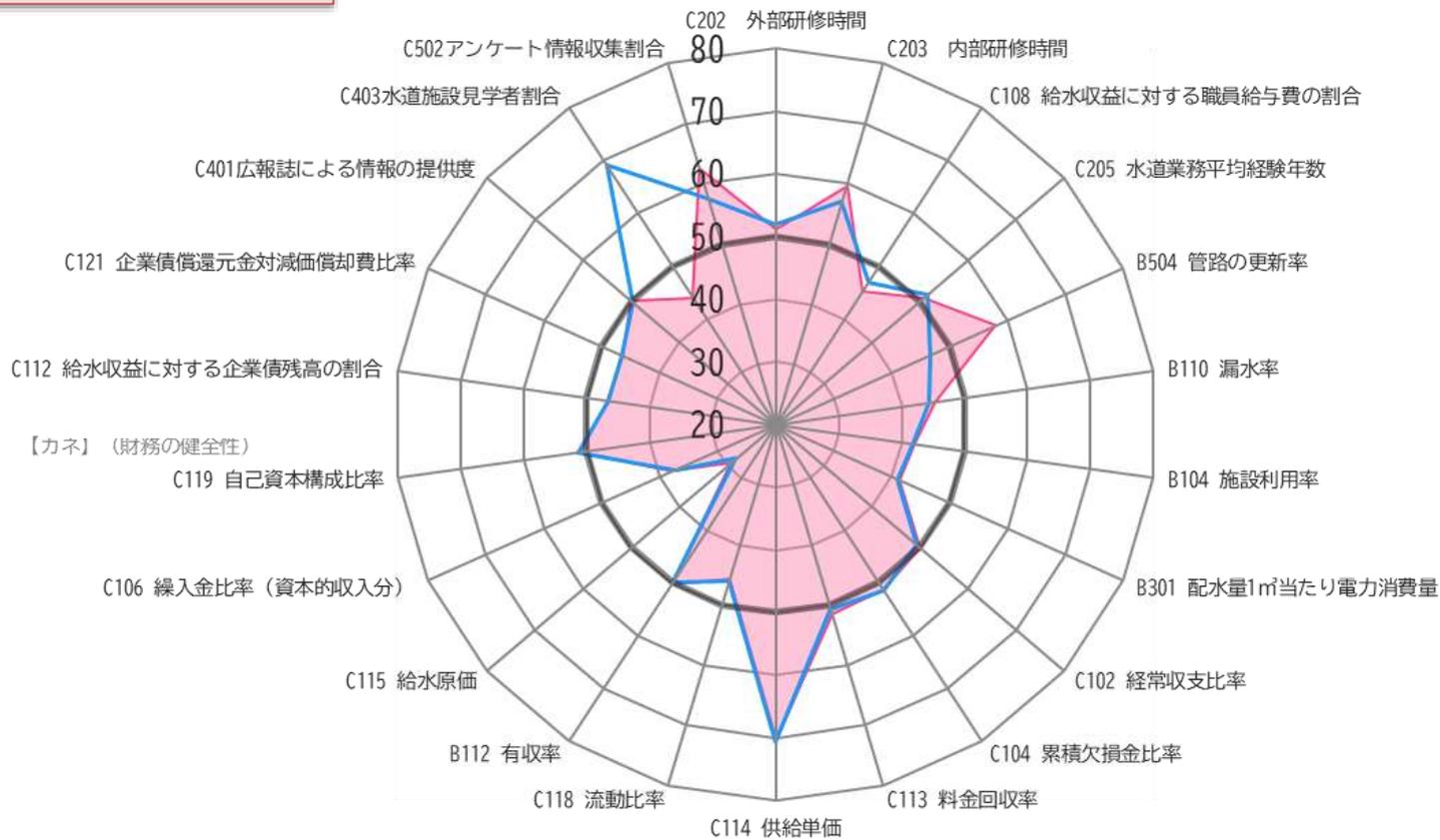


比較事業体平均



参考資料 いわき市の乖離値レーダーチャート(類似団体 48事業体)

持 続



乖離値 R 5



乖離値 R 4



比較事業体平均



IV まとめ



「いわき水みらいビジョン2031」の2年目となる令和5年度は、目指すべき将来像の実現に向けた歩みを着実に進めるため、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの方向性と基本方針の下、各種事業を実施してきました。

「実施事業評価」については、66事業のうち実施事業のなかった1事業を除き、**最高評価である「A評価」が59事業、「B評価」、「C評価」がそれぞれ3事業**となりました。

なお、9つの主要事業のうち、「水道施設更新事業」、「水道施設津波・浸水対策事業」、「重要給水施設配水管整備事業」、「老朽管更新事業」の4事業については、主に、**資機材の納期遅延の影響により、繰越が生じたため、「A評価」を達成できませんでしたが、繰越した事業は令和6年度に完了する見込み**です。

「業務指標評価」については、**物価高騰や動力費の増加、給水人口の減に伴う給水収益の減少などにより、財務に関わる指標が悪化していますが、災害対策に関わる指標は主要事業の実施によりおおむね改善の傾向にあります。**

今回の事業評価の結果を事業運営に反映するとともに、経営状況が厳しいなか、より効率的かつ効果的に事業を着実に実施することで、基本理念「未来に引き継ぐいわきの水道 ～安全でおいしい水を必要なだけ～」の実現に向けて各種事業に取り組んでまいります。